



担当者目線にたった 企業年金制度へ

～企業年金一筋 40 年の経験を活かして～

Q 現在のお仕事と DC アドバイザーの資格をどのように役立てているか教えてください。

DC アドバイザー資格は、前々職時代に代行返上+DC 導入のプロジェクトがあり、人事部と企業年金基金が担当する際に、担当者 2 人で専門資格が必要だろうということになり、DC アドバイザーと DC プランナーを分担して受験しました。それ以来なので 20 年以上、ビジネス上の肩書となっています。50 歳を超え独立し、個人事業主としての登録は「DC アドバイザー」です。

現在は、40 年間の企業年金一筋の経験を活かして、企業サイド、特に担当者目線での各社制度にとって土台となるような仕事を心がけています。具体的には、DC 協会でのセミナーや研修での講師や資料提供、企業年金連合会での DC 担当としての研修講師や企業からの相談受付とコンサルティング、DC 広研（一般社団法人確定拠出年金・調査広報研究所）での制度運営調査や企業における加入者アンケート、継続投資教育のサポートなどです。その際に、一番重要なのは、正しい情報と知識、現場にどのように伝えるか。DC においては最終的に加入者個人の人生設計に大きくかかわりますので、いい加減なというか、不十分なアウト

プットを厳に慎むようにしています。

企業年金の仕事は国語、算数、社会の感性が大切と思っています。また、信託銀行での新人時代の上司の影響が大きいと感じています。当時は、厚生年金基金や適格年金でしたが、数理計算を支店所属の数理人が試算として電卓と算盤でやっており、本部数理課のコンピュータ結果とあまり変わらないことに驚きました。考え方を教えてもらい、自分でも収支計算や企業年金導入後の財務効果のシミュレーションを電卓でやっていたところが懐かしいです。学生時代は、あほう学部と言われていた法学部出身ですが、社会人生活 40 年の後半の仕事では法律に関わるが多くなったのも不思議です。

Q 堤様には過去様々なセミナーを通じて情報提供をいただきました。

（2023年9月「DC 運用商品ラインアップの見直し」～ターゲットイヤー型追加の検討事例より～等多数。）DC に対する情熱がどこから出るのでしょうか。

生まれ育った三河地方：愛知県知立市（豊田、刈谷、安城の真ん中にあります）で、父がトヨタ自動車関連（正しくはアイシン精機、トヨタ車体）の下請け町工場（両親だけの）で、もの

つくりをする姿を小さいことから見ており、
工作や絵画が好きでした。

企業年金の仕事では、各社に訪問しては、人事部の中に入って「一緒に制度を作る」ことを、
信託銀行の新人時代から担当しており、「少しでも良いもの（退職給付制度、企業年金制度）」
をつくることを心がけていました。三河のもの
のつくりに通じるように感じています。仕事
というよりは趣味の延長を楽しんでいるのか
もしれません。実はDB制度を愛しています。
現在はDCの仕事がメインとなっていますが、
「企業年金愛を感じますよ」と、DC協会のみ
なさんに言って頂けることが、今生の幸せで
す。



ライブ配信セミナー

Q 今後の活動への意気込みと今後のDC法改正への期待は？

今まさに新たな法改正の全貌を待ちワクワクしているところです。思えば、DCスタート時は、全く新しい企業年金法が世に出ると思っていたものとは異なる点があり、前々職ではモヤモヤしながら制度運営や加入者セミナーを企画・実施していました。数回の法改正を経て、モヤモヤはかなり解消されましたが、想定していなかったものになった点もあります。

DCアドバイザーとしての今後の活動では、法改正による改善点を活かすことで各社のDC制度がより良いものとなるよう、今できる最善な提案（アドバイス）を企業に対して行っていきたいです。そのため、自己に厳しく、常に精進をモットーとして参ります。

Q DC協会への要望をお願いします。

DC協会がDC加入者と直に接する機会はありませんが、「DCアドバイザー」という専門家を通じて、金融経済教育の普及や金融リテラシーの向上という面で DC加入者一人ひとりに対して担っている役割があると思います。そのためにDCアドバイザー、一人ひとりのレベルアップが欠かせません。DC協会は、その人材育成に関して、DC法が成立しDC協会が発足されたスタート時から、同じポリシーで活動が続いてきていると感じています。

今や、日本でも資産運用で自身の資産を作っていく時代です。その中で、企業型DCの役割はますます大きくなっています。DC協会が提供していくサービス（研修コンテンツや情報配信）においても、資産運用業界ではない中立的な立場での拡充を求めたいと思います。

また、今後DCに関する相談はますます増えていくと予想されます。その際、DC制度をきちんと理解したDCアドバイザーこそが求められるのではないのでしょうか。

(2025年3月18日実施)



横浜マラソンの様子

堤 裕而 つつみ ゆうじ

信託銀行から民間企業2社の勤務を経て独立。企業年金連合会や、DC広研でDC研修やコンサルティングに係り、企業のDC事例に精通。DCアドバイザーとして、加入者と担当者の目線に立ち、DC・DB制度のサポートに熱心に取り組む。